

2-4 まちづくりにおける地域の課題

まちづくりにおける地域の課題は、以下のように整理できる。

(1) 防災・防犯関係

- 岡田地区は、急傾斜地（土砂災害警戒区域）やため池が多いこともあり、30年以内に70%の確率で発生が予想される国内最大級の南海トラフ地震はもとより、異常気象による災害に対しても十分な備えが必要であるが、これまで災害が少なかったためか、防災意識が低調で、防災・避難体制も十分とはいえない状況にある。
- また、犯罪や交通事故についても発生の少ない地区ではあるが、国道32号バイパスや438号の整備による通行車両の高速化や交通量の増加、安全施設が未整備なうえ、保守管理が行き届かない生活道路の増加などによる交通事故・転落事故の増加、住民相互のつながりが弱まるなかで、こどもや女性、高齢者を狙う犯罪が増加するのではといった懸念がある。

(2) 福祉・健康関係

- 地元から個人商店が減少し、大きな医療機関もなく、かつ地域内の公共交通網が整備不十分な状況のなかで、車に乗らない高齢者や住民は、日常生活が不便な状況に置かれており、今後、高齢化の進展とともに深刻な地域問題となることが予想される。
- また、ひとり暮らしの高齢者や高齢夫婦のみの世帯が増えているが、こうしたひとにも住み慣れた岡田の地で安心して暮らしていただくためには、多くの住民が感じているように、地域として何らかの形で支援していく必要がある。
- 長寿社会にあって、いつまでもいきいきと輝くためには、楽しく、落ち着け、新たな刺激があり、役立っている意識の持てる居場所があることに加え、健康であることが欠かせない。しかし、知識や経験を生かしたり、ほかのひとと気軽に集い交流できる機会や場所はまだまだ少なく、運動や健康管理に対する関心も高いとはいえない状況にある。

(3) こどもの育成関係

- 子育てに不安や悩みを抱えている親が少なからず存在し、今後これまで以上にこどもの減少が予想されるなか、こどもを生み育てやすい環境、特にこどもを地域ぐるみで育てていく体制を整備していく必要がある。
- また、最近では家のなかでひとり遊びをすることも多いが、こどもの数の減少、家族の少人数化とともに、近くに安全な遊び場が少ないことも要因としてある。このため、地域として、子育て世代の“近くに公園・緑地やこどもの安全な遊び場が少ない”との声にしっかりこたえていく必要がある。

(4) 地域づくり関係

- 住民の間には、これからのまちづくりに、“住民同士の助け合いを大切にしていこうべき”との意見が多いが、助け合いの気持ちは、日頃のふれあいや共通の経験、共同作業等を通して生まれる。そのため地域間・世代間をつなぐ“住民が気軽に交流できる場”とともに、住民が主体的に参加できるイベントメニューを用意していく必要がある。
- 地域には、農業が衰退し地盤沈下の進む岡田地区を何とか活性化したい、そして、近くに働く場所も欲しいという強い思いがあるが、これはコミュニティにとって重すぎる課題であり、行政にもその思いを反映し、取り組みを促していく必要がある。

- 地域活動のリーダーや担い手の不足を懸念する声が多くあり、今後、人材を積極的に発掘・育成していく必要がある。特に、いま活動の中心は他に比べ年齢層の厚い60歳代と70歳代前半であることから、人材育成・確保への取り組みが急務となっている。ただ、こうした活動は特定のひとにまかせるということだけでなく住民一人ひとりが自分でできることを持ち寄って、互いに協力して進めることが必要である。同時に、高齢等で任務を果たすことが困難なひとには役職を免除するなどの柔軟な取り組みも必要である。

- 自分の住んでいる地域のことを知らないで地域に関心が湧くはずがなく、地域に関心がなくて地域活動が生まれるわけもない。このため、地域のこれからの課題を含めた様々な情報をより多くの住民に届け、共有化していくことが重要である。

(5) 環境保全関係

- 近年、私たちの周囲には、遊休農地や耕作放棄地が増加するとともに、水路の汚れや管理などの問題が生じている。また、野犬や野生動物等の出没が住民の安全を脅かしたり農作物に被害を生むなど生活環境が悪化しつつある。
- 地球はわれわれの世代だけのものでない。もはや地球温暖化や資源問題は避けて通れず、わずかな努力でできるゴミの減量化や省エネに積極的・継続的に取り組む必要がある。
- 自然環境に恵まれていることが岡田に住み続けたい大きな理由であるように、この自然環境は岡田の大きな財産である。これをいつまでも大切にし、後世に確実に引き継いでいく必要がある。

(6) 教育・文化関係

- 旧綾歌町時代の町民憲章では一番目に「歴史と伝統を守り、教育と文化の香り高い町をつくりましょう」とうたわれていたが、合併後10年が経過した現在もこの思いは住民に引き継がれていると考える。
- そうした思いを実現するため、歴史や文化を継承が容易な形に整理し、学習することを通じて、先人達が築いた岡田の歴史や文化に理解を深め、郷土岡田に誇りと愛着を持つとともに、これを後世に引き継いでいくことは、わたしたちにとっての大きな課題である。



2-5 めざすまち

I期計画では、“住み続けたいまち おかだ”をめざすまちとしてその実現に向けて取り組んできた。

今回、II期計画を策定するにあたり、あらためて、岡田を振り返ってみる。

岡田は、香川県のほぼ中央に位置し、南に高く北に緩やかに傾斜した台地上にある。気候は温暖で災害も少なく、自然環境や自然条件に恵まれた農村地帯である。また、当然ながら眺望も優れ、亀越池を築きその後の岡田の発展を導いた岡田久次郎、南部の城山にある西長尾城跡など壮大な夢やロマンを感じさせる歴史もある。

地域内は国道32号、同438号、県道岡田善通寺線、同岡田丸亀線が縦横に走り、ことでも含め、県内の主要都市とは比較的便利に往来できる状況にある。また、保育所、幼稚園、小学校、郵便局、駐在所、J A支店、銀行支店、医院などがあり、総合病院、大型量販店等はないものの、郡部にある地区としては、比較的生活条件が整っている。

また、住民の性格は穏やかで、人情も厚い。見守りや支え合いの意識も高く、犯罪や事故も少ない。ことどもも素直で礼儀正しい。

このように、他に誇れる“おかだ”であるが、もちろん、前述のとおり、他の地区と同様に解決すべき様々な課題があるし、課題は今後も出てくる。そのすべてが解決できるわけではないが、住民が力を合わせて取り組み努力するその先に、すべての住民にとって、住みやすい、住み続けたいまちがあると考ええる。

そこで、めざすまちをI期計画と同様“住み続けたいまち おかだ”とする。

住み続けたいまち おかだ



2-6 まちづくりの目標

多くの住民がこれからのまちづくりにおいて、「住民同士の助け合い」「市民の生きがいや健康づくり」「交通の便を生かしたまちづくり」「農産物の地産地消等による農業の活性化」「地域活動の担い手育成」を大切にしていこうと答え、同様にふさわしい岡田のイメージとして「安心して暮らせるまち」「健康で暮らせるまち」「みんなで支え合うまち」「モラルの高いまち」「自然を大切にすまち」「ひとがいきいきと輝くまち」をあげている。

これらの意見や各種懇談会で出された意見等をふまえ、次の5つをまちづくりの目標とする。

安心して暮らせるまち

それは、災害に対する備えを確立し、犯罪や事故のない安全な社会づくりにみんなが協力して取り組むまち

助け合い、支え合うまち

それは、住民同士のつながりやお互いさまの意識を大切にし、だれもが助け合い、支え合うまち

ひとがいきいきと輝くまち

それは、まちに活気があり、一人ひとりが尊重され、だれもが生きがいをもって、心身ともに健康で暮らせるまち

笑顔あふれるこどもが育つまち

それは、自主性、豊かな創造力、他人を思いやる豊かなこころをもったこどもが育ち、地域のいたるところでこどもの明るい声や笑顔のあふれるまち

環境や教育、文化を大切にすまち

それは、豊かな自然や優れた景観を守り育て、地域の歴史と文化を理解し、後世に引き継いでいくまち

2-7 計画事業

安心して暮らせるまち

住民一人ひとりの防災・防犯意識を高めるための啓発活動、非常時に実際に機能する防災・減災システムづくり、関係個所と連携した見守り活動などを進めていく。

【具体的取り組み事業】

- 防災に関する事業
地震、集中豪雨など自然災害による被害の防止と軽減を図るため、防災意識の高揚のための学習・啓発活動や災害時に実際に機能する防災システムづくりとそれに基づく避難・救護訓練等を行う。
- 犯罪防止に関する事業
子どもや高齢者を狙った犯罪を未然に防ぐため、行政や関係個所と連携しながら、パトロール活動や防犯に関する学習・啓発活動を行う。
- 事故防止に関する事業
交通事故など不慮の事故を未然に防ぐため、関係個所と連携しながら啓発・学習活動や交通安全施設の点検整備などを行う。

助け合い、支え合うまち

だれもが安心して地域で暮らしていけるよう、住民一人ひとりが福祉に関心を持つとともに、高齢者等の日常生活を福祉関係者と地域の身近なひとで見守り、助け合い支え合う取り組みを進めていく。

【具体的取り組み事業】

- 高齢者等支援事業
福祉関係者や自治会等と連携しながら、見回り・声かけや日常生活におけるちょっとした支援のほか、いきいきサロン活動の支援などを行う。
- 福祉関係者交流事業
地域福祉を担う関係者の情報共有や連携強化のため交流研修を行う。
- 地域ボランティア育成事業
小中学生にボランティアを体験してもらい、豊かな人間関係の形成を図るとともに、将来の地域福祉や地域づくりを担う人材を育成する。
また、地域活動の実践的な担い手を確保するため、登録ボランティア制度を創設運用する。
- 域内情報の発信事業
コミュニティだよりとホームページを駆使し、地域の情報や課題を、より分かりやすく、より充実した内容で、より多くの住民に届くよう発信する。

ひとがいきいきと輝くまち

地域のにぎわいづくり、落ち着いた居場所や多くのひとが気楽に集まれる交流の場づくり、運動や食さらには体力テストを通じた健康づくりを進めていく。

【具体的取り組み事業】

- 健康づくり事業
健康ウォーク道の整備、運動習慣を身につけるための健康教室やイベントの開催自らの体力を自覚させるための体力テストを行う。
- 料理教室事業
男女共同参画意識の高揚と住民相互の人的交流を促す効果も期待しつつ、地元農産品の使用や食事バランスに配慮した料理教室を行う。
- 介護予防・認知症予防事業
介護や認知症の予防に向けた講習会や情報提供を行う。
- 交流の場づくり事業
だれでも気軽に利用できるカフェをコミュニティ内に開設するとともに、地域としての一体感の醸成にもつながるコミュニティまつりなどを行う。
- 地域おこし事業
地域のにぎわいづくり、地域の振興のため、おかだの良さをPRするとともに、農業振興等につながる事業を行う。
- 長生会活動支援事業
長生会組織の充実・強化と活性化を図るため、プラスワン事業を推進する。

笑顔あふれるこどもが育つまち

こどもと子育て世代を地域で支えていく環境を整備していくとともに、こどもにさまざまな遊びを体験させる機会や安全な遊び場を確保する取り組みを進めていく。

【具体的取り組み事業】

- 保・幼・小とのふれあい交流事業
心豊かで笑顔あふれるこどもを育てるため、あいさつや花づくり・自然体験を通じた交流を行う。
- 子育て支援事業
こどもの安全な屋内外の遊び場づくり、子育て情報交換の場づくりを進めるほか、子育て学習の場としての親塾、夏休み子ども教室を開設する。

環境や教育、文化を大切にすま

自然環境や景観を大切に、身近な生活環境を整備していくとともに、岡田の歴史や文化を学び後世に引き継ぐ取り組みを進めていく。

【具体的取り組み事業】

- 生活環境改善事業
地域や河川の清掃、緑のカーテンや花壇づくり、ゴミの減量化などを行う。
- 野犬・野生動物被害防止対策事業
地域住民や農作物を野犬や野生動物から守るため、行政の協力を得ながら、必要な対策を行う。
- 歴史文化伝承事業
おかだの地理や歴史・文化を理解し、おかだに愛着と誇りを持ってもらい、さらには後世に伝えていくために、史跡等を訪ね歩くふるさと探訪を引き続き実施するとともに、地域学、郷土学としての岡田学講座を開設する。

まちづくり計画事業と事業の細目

安心して暮らせるまち

□部分は、現在取り組んでいるもの

計画事業	事業の細目	実施内容	担当部	関係部署
○防災に関する事業 地震、集中豪雨など自然災害による被害の防止と軽減を図るため、防災意識の高揚のための学習・啓発活動や災害時に実際に機能する防災システムづくりとそれに基づく避難・救護訓練等を行う。	①防災訓練及び防災学習	避難、救護、消火、炊き出しなど、防災訓練を毎年定期的に実施する。防災や減災に関する研修会、講演会を開催する。	安全部	消防団第13分団
	②自主防災組織の再構築	迅速かつ効果的に機能するよう自主防災組織を見直すとともに、要員配置、連絡網についても見直す。	安全部	自治会
	③防災資機材の調査と管理	保有すべき防災資機材を再点検するとともに、定数の見直しと必要時に適切に使えるよう適正に管理する。	安全部	
	④災害時要援護者の避難支援	地域の災害時要援護者の把握と支援者の確認を行う。	安全部	民生児童委員自治会
○犯罪防止に関する事業 こどもや高齢者を狙った犯罪を未然に防ぐため、行政や関係部署と連携しながら、パトロール活動や防犯に関する学習・啓発活動を行う。	①通学路の安全パトロール	青色パトロールカーによる小学校通学路等のパトロールを継続実施する。	子ども安全対策本部	
	②防犯教室	振り込み詐欺など時宜に応じた防犯教室を開催する。	安全部 長生部	
○事故防止に関する事業 交通事故など不慮の事故を未然に防ぐため、関係か所と連携しながら啓発・学習活動や交通安全施設の点検整備などを行う。	①交通安全施設の整備	カーブミラーの清掃を実施するほか、交通安全施設、危険か所を点検し、必要な整備等を関係部署に働きかける。	安全部	道路管理者自治会 PTA
	②交通危険か所マップの作成	重大交通事故の発生か所、交通事故の多発か所など交通危険か所を記したマップを作成・配布する。	安全部	自治会
	③交通安全教室の開催	高齢者等を対象とした交通安全教室を定期的に行う。	安全部 長生部	警察署 交通安全協会



助け合い、支え合うまち

■ 部分は、現在取り組んでいるもの

計画事業	事業の細目	実施内容	担当部	関係部署
○高齢者支援事業 福祉関係者や自治会等と連携しながら、見守り声かけや日常生活におけるちょっとした支援のほか、いきいきサロン活動の支援などを行う。	①高齢者宅の見回り・声かけ運動	・自治会活動の一環として、回覧板の手渡しなどを通じて日常的に見回りや声かけを行うとともに、福祉ママ・福祉協力員等による定期的な見守りや声かけを行う。	福祉部	自治会 民生児童委員 福祉ママ 福祉協力員
	②高齢者等の生活交通手段の確保	・車に乗れない高齢者等の買い物など日常生活における移動手段を確保する方策を検討するとともに、必要により関係部署への働きかけを行う。	福祉部	市
	③高齢者の困りごと支援	・高齢者の困りごとの調査を行う。また、対応策を検討し、可能なものから実施するほか、市や社協の支援事業・福祉サービス等を紹介する。	福祉部	市、社協、 民生児童委員
	④いきいきサロン活動の支援	・いきいきサロンの全地区での実施を支援するほか、市の出前講座の紹介など内容の充実についても支援する。	福祉部	福祉ママ、 民生児童委員
	⑤敬老会の開催支援	・市に協力して敬老会を開催する。	特別委員会	市 婦人会
	⑥障がい者家庭の支援	・障がい者や障がい者家庭の支援に向け、実態把握等に着手する。	福祉部	民生児童委員
	⑦高齢介護者の支援	・寝たきりや認知症の高齢者のいる高齢介護者(老老介護)の支援に向け、実態把握等に着手する。	福祉部	民生児童委員
○福祉関係者交流事業 地域福祉を担う関係者の福祉制度の理解促進と情報共有や連携強化のため交流研修を行う。	①福祉関係者研修会の実施	・地域の福祉を担う民生児童委員、福祉ママ、福祉協力員による研修会を定期的に開催する。(1回/年)	福祉部	民生児童委員 福祉ママ 福祉協力員
○地域ボランティア育成事業 小中学生にボランティアを体験してもらい豊かな人間関係形成を図るとともに、将来の地域福祉や地域づくりを担う人材を育成する。 また、地域活動の実践的な担い手を確保するため、登録ボランティア制度を創設・運用する。	①小・中学生ボランティアの育成	・コミュニティ事業に協力してくれる小・中学生ボランティアを募集・育成する。	特別委員会	社協
	②登録ボランティア制度の創設と運用	・分野毎に自分にできる仕事・作業や曜日・時間帯などを登録してもらい、コミュニティ事業実施の都度参加案内協力を依頼する登録ボランティア制度を創設・運用する。	特別委員会	
○域内情報の発信事業 コミュニティだよりとホームページを駆使し、より分かり易く、より充実した内容で、より多くの住民に届くよう地域の情報を発信する。	①コミュニティだよりの充実	・地域の情報や課題、コミュニティの活動内容を広く住民に伝えるため、引き続きコミュニティだよりを発行するとともに、その充実を図る。	総務部	
	②ホームページによるタイムリーで積極的な情報発信	・スマホ利用などを意識し、ホームページ掲載情報の継続的な見直しとタイムリーな更新を図る。(毎週更新)	総務部	

ひとがいきいきと輝くまち

■ 部分は、現在取り組んでいるもの

計画事業	事業の細目	実施内容	担当部	関係部署
○健康づくり事業 健康ウオーキング道の整備、運動習慣を身につけるための健康教室やイベントの開催、自らの体力を自覚させるための体力テストを行う。	①健康ウオーキング道の整備とふれあいウォーキングの実施	・健康ウオーキング道のさらなる活用を促すため、コース地、距離・所要時間・消費カロリーなどを明示する。また、ふれあいウォーキングを実施する。	体育部	NPO あやうた
	②グラウンドゴルフ大会の開催	・住民の健康増進と交流を進めるため、定期的に開催する。	体育部	
	③ゴルフ大会の開催	・住民の健康づくりと交流を進めるため、定期的に開催する。	体育部	
	④健康体操教室の開催	・住民の健康づくりのため、赤ちゃん体操、ヨーガ教室を開催する。	体育部	市
	⑤体力テストの実施	・出前講座を利用して定期的に希望する住民の体力テストを実施する。	体育部	市
○料理教室事業 男女共同参画意識の高揚と住民相互の人的交流を促す効果も期待しつつ、地元農産品の使用や食事バランスに配慮した料理教室を行う。	①中高年男性のための料理教室	・中高年の男性の生活の改善と生活に潤いとはりを持たせ、さらには交流を促すため、料理教室を定期的に開催する。	福祉部	
	②子育て世代の男性料理教室	・子育て世代の男女共同参画意識の向上、食を通じた健康づくりへの関心、地域での交流を促すため、料理教室を定期的に開催する。	福祉部	市
○介護予防・認知症予防事業 介護や認知症の予防に向けた講習会や情報提供を行う。	①「認知症対策はこれでバッチリ」講座を開催	・認知症の知識、介護予防のための体操、認知症になりにくい生活習慣、認知症予防の脳トレなど認知症全体を網羅した内容で、講座を開催する。	長生部	市包括支援センター
○交流の場づくり事業 だれでも気軽に利用できるカフェをコミュニティ内に開設するとともに、地域としての一体感の醸成にもつながるコミュニティまつりなどを行う。	①だれでもカフェの開設	・少額の会費を払うことで、誰でも気軽に利用でき、コーヒーや茶を飲みながら交流できるカフェをコミュニティセンター内に開設する。	総務部	
	②コミュニティまつり、夏まつり	・コミュニティまつり、夏まつりを開催する。	特別委員会	
	③阿田久次郎まつりの支援	・隔年に開催される地域の若者のまらおこし活動を側面から支援する。	特別委員会	
○地域おこし事業 地域の賑わいづくり、地域の振興のため、おかだの良さをPRするとともに、農業振興等につながる事業を行う。	①おかだ十景の活用	・おかだ十景をホームページに掲載するとともに、おかだ十景選定箇所の説明表示板を設置するなどして、PRする。	総務部	
	②おかだマルシェ(農産物直売・フリーマーケット)の開催	・農業振興と地産地消の推進、高齢者の生きがいづくり、住民同士の交流などを兼ねて、農産物、手作り作品、古着等の出品者や運営を担う有志を募り、コミュニティ駐車場等を利用して、定期的に市を開催する。	特別委員会	
○長生会活動支援事業 長生会組織の充実・強化と活性化を図るため、プラスワン事業を行う。	①プラスワン事業の推進	・プラスワン事業として「各長生会で会員1名以上の増」「各長生会でひとつ以上の事業の増」「定例会議の開催」を推進する。	長生部	長生会



笑顔あふれるこどもが育つまち

□部分は、現在取り組んでいるもの

計画事業	事業の細目	実施内容	担当部	関係部署
○県・市小とのふれあい交流事業 心豊かで笑顔あふれるこどもを育てるため、あいさつや花づくり・自然体験を通じた交流を行う。	①あいさつ運動	保育所、幼稚園、小学校門前等での定期的なあいさつ運動を実施する。(1回/月)	特別委員会	自治会
	②保・幼・小との花壇づくり交流	保・幼・小のこどもたちと共同で花壇づくりを行う。	環境部	保・幼・小
	③保・幼との自然体験 昔遊び体験交流	保・幼のこどもたちに農拾いを疑似体験させたり、昔遊びを体験させたりする。	環境部	保・幼
	④小との環境美化体験交流	小学生のボランティア活動の一環として、公共施設の清掃、ゴミ拾いなどを共同で行う。	環境部	小
○子育て支援事業 こどもの安全な屋内外の遊び場づくり、子育て情報交換の場づくりを進めるほか、子育て学習の場としての親塾、夏休みこども教室を開校する。	①プレイルームの新設と標足で遊べる野外公園の整備	こどもたちが安全に遊べる屋内プレイルームの新設、親子が楽しく標足で遊べる野外公園の整備(新設を含む)について市の関係部署と協議検討し、その実現を図る。	福祉部 環境部	市 民生児童委員 母子保健推進員
	②子育て情報交換の場づくり	子育てについて気軽に情報交換や相談のできる機会、場所を提供する。	福祉部	市 助産師会
	③親塾の開催	祖父母や両親、地域のひとの子育て学習や交流の場、親と学校を結ぶ場として親塾(講演、交流等)を開催する。	環境部	PTA
	④夏休み子ども教室	夏休み等の休日を利用して、創造型の遊び、料理、工作、ロープワーク、山歩き等を体験させる。	特別委員会	PTA 子ども会



環境や教育、文化を大切にするまち

□部分は、現在取り組んでいるもの

計画事業	事業の細目	実施内容	担当部	関係部署
○生活環境改善事業 地域や河川の清掃、緑のカーテンや花壇づくり、ゴミの減量化に向けた取り組みなどを行う。	①町内一斉清掃の実施	清潔できれいなまちづくりのため、町内一斉清掃を継続して実施する。	環境部	自治会
	②土器川清掃の実施	土器川を美しくする会の協賛に賛同し、自治会等とともに清掃活動を行う。	環境部	国交省 市 自治会
	③緑のカーテン普及活動	自然の力を利用した夏場の省エネ対策として、家庭における緑のカーテンの普及を進める。	環境部	
	④季節の花壇づくり	地元自治会とともに天神花壇の花の植え付け管理を行う。	環境部	自治会
	⑤環境微生物作りと環境微生物の利用講習会	環境微生物を利用した生活排水の浄化、有機肥料としての活用を図る。	環境部 福祉部	
	○野犬・野生動物被害対策事業 地域住民や農作物を野犬や野生動物から守るため、行政の協力を得ながら必要な対策を行う。	①野犬・イノシシ被害防止策の強化充実	被害対策の強化、被害対策費用の援助等について、行政に働きかける。	安全部
○歴史文化伝承事業 おかだの地理や歴史を理解し、おかだに愛着と誇りを持ってもらい、さらには後世に伝えていくために、史跡等を訪ね歩くふるさと探訪行事や地域学、郷土学としてのおかだ学講座を開講する。		①ふるさと探訪の実施	おかだの史跡や歴史、自然を訪ねる「ふるさと探訪」を継続実施する。(1回/年)	総務部
	②おかだ学講座の開講	岡田に関する地理や歴史・文化・史跡、慣行とその背景などを理解し、後世に伝えていくために、関係資料を整備するとともに、資料を活用しておかだ学講座を開講する。(資料整備目標:29年度末)	総務部	

(注1) 関係部署は、事業の実施にあたり特に連携を深める必要のある部署を記載している。したがって、すべてを網羅しているわけではない。

(注2) 特別委員会は、事業に応じて編成する。



住み続けたいまち おかだ

資料編

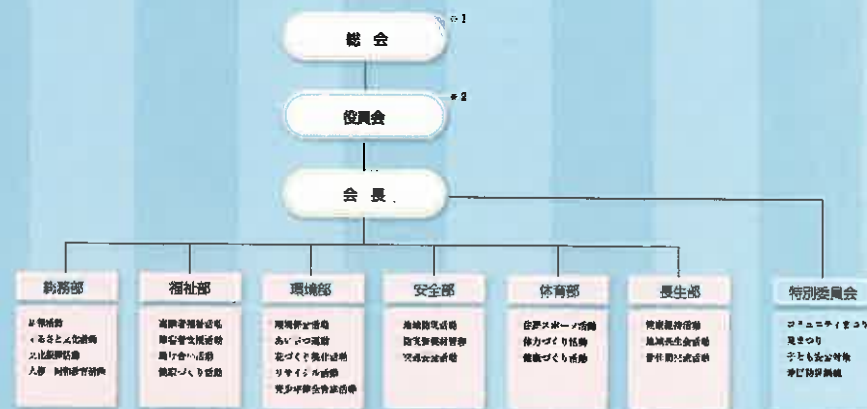


第Ⅱ期まちづくり計画策定委員

役職名	氏名	所属
委員長	渡辺 佳廣	岡田コミュニティ会長／岡田校区連合自治会長
副委員長	安川 俊夫	〃 副会長／ 〃 副会長
〃	土岐 正宏	〃 副会長
〃	山地 赫子	〃 副会長／岡田婦人会長
委員	剱田 敏造	〃 総務部長
〃	岩崎 晶典	〃 福祉部長／丸亀市身体障害者福祉連合協会
〃	山地 清	〃 環境部長／民生児童委員
〃	岩崎 富夫	〃 安全部長／香川県防災士会中讃支部
〃	岡島 卓	〃 体育部長
〃	高橋 健一	〃 長生部長／岡田地区長生会長
〃	松岡 康博	岡田校区連合自治会副会長
〃	土岐 道憲	元綾歌町教育長／NPO 法人あやうた理事長
〃	樋口 昌樹	丸亀市立岡田小学校長
〃	宇藤 早苗	丸亀市立岡田保育所長
〃	野田 絹代	民生児童委員／福祉保健推進委員／岡田コミュニティ書記
〃	古市 剛嗣	元岡田コミュニティセンター所長
〃	岩崎 雅彦	岡田久次郎まつり実行委員長
〃	楠本 友子	岡田愛育班役員
事務局	堀家 敏幹	岡田コミュニティセンター所長（～平成27年12月）
〃	引田 真人	岡田コミュニティセンター所長（平成28年1月～）
〃	土方 実加	岡田コミュニティセンターまちづくりプランナー

計21名

岡田コミュニティ組織図



● 岡田校区連合自治会、関係機関、請附体及び学識経験者による4代議員

性別	岡田校区連合自治会				関係機関 岡田外 学識経験者
	岡田上	岡田下	岡田東	岡田西	
人数	31	19	15	23	25

● 会長、副会長、部長、副部長、会計、書記、監事、事務局長

岡田のため池一覧（貯水量ベスト20）

番号	池名	所在地		貯水量 (千m ³)	かんがい面積 (ha)
0	亀越池	まんのう町長炭		958.0	543.0
①	小津森池	東	小津森	545.0	145.0
②	打越下池	上	西打越	249.0	230.0
③	打越上池	上	西打越	194.0	230.0
④	為久池	東	上新開	82.5	26.0
⑤	西池	上	平塚	48.5	47.0
⑥	皿池	上	重水	47.5	21.0
⑦	今滝池	上	今滝	44.0	36.0
⑧	成願寺池	西	重光	40.0	19.0
⑨	猫谷池	上	津森	32.0	15.0
⑩	天神池	上	市地	30.0	30.0
⑪	宮池	上	池の内	28.8	19.0
⑫	札谷池	上	津森	28.1	10.0
⑬	射場池	上	射場	22.2	4.5
⑭	北原池	東	上新開	22.0	16.0
⑮	源田池	西	森俊	17.8	11.0
⑯	河内谷中池	上	国吉	12.0	4.0
⑰	宮池下池	上	平尾	11.5	6.5
⑱	菰池	上	西射場	11.1	1.6
⑲	奥泉下池	下	天神甲	10.8	40.0
⑳	椎尾池	東	椎尾	9.6	16.0

注：亀越池はまんのう町にあります。

讃岐のため池誌（平成11年調査）参照

おかだの歴史年表

西暦	年号	郷土（おかだ）の出来事
1633年	寛永10年	岡田久次郎亀越池を築く
1672年	寛文12年	矢延平六、小津森池を築く
1682年	天和2年	矢延平六、滝鼻出水を完成させる
1829年	文政12年	打越池完成（木村甚三郎）
1854年	安政元年	讃岐に大地震があり人家被害3000余戸
1867年	慶応3年	ええじゃないかの騒ぎがおこる
1874年	明治7年	赤坂・東岡・咲屋・宮北に小学校を設置
1876年	明治9年	岡田郵便局設置（岡田東村）
1879年	明治12年	赤坂・咲屋小学校を統合し環池学校を設立
1887年	明治20年	環池・宮北・東岡小学校を統合し岡田小学校を設立
1889年	明治22年	岡田上村・岡田下村・岡田東村・岡田西村が合併し、岡田村となる
1896年	明治29年	警察岡田分署設置
1898年	明治31年	美合・造田・長炭・岡田4か村組合設立 岡田高等小学校開設
1905年	明治38年	組合立岡田高等小学校を廃止し岡田尋常高等小学校設立
1906年	明治39年	岡田農業補習学校設立
1910年	明治43年	岡田小学校6年制となる
1914年	大正3年	綾歌郡立飯山農学校創立
1919年	大正8年	岡田小学校校舎増築
1931年	昭和6年	岡田農業補習学校を岡田国民学校と改称
1936年	昭和11年	亀越池増築に着手（県営）
1941年	昭和16年	国民学校令により小学校は国民学校となる
1945年	昭和20年	高松空襲により県庁焼失の為、岡田国民学校に県庁舎を疎開
1946年	昭和21年	南海大地震が発生する（12月21日）
1947年	昭和22年	国民学校は小学校となり、新制中学校発足
1948年	昭和23年	農業協同組合、農業共済組合設立
1950年	昭和25年	岡田幼稚園設置
1951年	昭和26年	飯山高校岡田分校を岡田中学校に併置
1953年	昭和28年	県営土器側右岸土地改良区設立
1954年	昭和29年	岡田保育所設置
1956年	昭和31年	岡田小学校で味噌汁給食開始。岡田小学校舎（3階建て）着工
1957年	昭和32年	岡田小学校、完全給食を実施
1958年	昭和33年	岡田小学校竣工（1959年落成記念祝賀会）

おかだの歴史年表

西 暦	年 号	郷土（おかだ）の出来事
1959年	昭和 34年	久万玉村と岡田村が合併して綾歌町になる
1960年	昭和 35年	綾歌町商工会設立 有線放送開始
1963年	昭和 38年	岡田・久万玉中学校を統合し綾歌中学校となる
1964年	昭和 39年	飯綾葬祭組合設立
1965年	昭和 40年	綾歌町学校給食センター開設
1966年	昭和 41年	綾歌中学校舎完成
1967年	昭和 42年	岡田幼稚園園舎・プール完成
1969年	昭和 44年	高松・琴平間の県道が国道 32号線となる
1972年	昭和 47年	綾歌町史編纂事業始まる
1973年	昭和 48年	飯綾消防組合設立 綾歌町章を公募により決定 岡田おどり保存会発足
1974年	昭和 49年	第1回綾歌まつり開催
1977年	昭和 52年	岡田小学校百年祭挙行
1978年	昭和 53年	綾歌町役場庁舎完成
1979年	昭和 54年	岡田保育所完成
1980年	昭和 55年	綾歌町の人口が1万人を突破
1982年	昭和 57年	第1回「ふるさとまつり」開催
1910年	昭和 61年	岡田小学校プール完成
1988年	昭和 63年	湯舟道完成
1991年	平成 3年	レオマワールド開園
1993年	平成 5年	東四国国体炬火リレーに小中生参加
1995年	平成 7年	中讃大規模農道が県道 278号となる
1996年	平成 8年	総合文化会館「アイレックス」完成
1999年	平成 11年	桜谷聖苑完成
2001年	平成 13年	「おでかけバス」運行開始
2002年	平成 14年	「保健福祉センター」完成
2004年	平成 16年	「ニューレオマワールド」リニューアルオープン
2005年	平成 17年	綾歌町、丸亀市と合併 あやうた幼稚園創立 岡田コミュニティ設立
2006年	平成 18年	岡田コミュニティセンター竣工
2008年	平成 20年	国道 32号バイパス全線開通
2013年	平成 25年	岡田小学校新校舎落成

平成28年4月1日発行

編 集 第Ⅱ期まちづくり計画策定委員会

発 行 岡田コミュニティ

岡田コミュニティセンター内

〒761-2402 丸亀市綾歌町岡田下516番地1
TEL・FAX (0877) 86-3001